

地域づくり活動支援事業

# おたづき探検

発行 キタ美実行委員会  
監修 喜多方市都市整備課, 文化課  
デザイン 筑波大学芸術系 PLAY RESILIENCE Lab.  
発行日 2022年6月15日



完成した陶器のプレートを仮設置する樟山珈琲店代表の樟山さん。小田付のマークは、水の街であることを象徴する雫の中に、蔵の屋根を模した形態が用いられている。



## 標識デザイン決定! プレート第一弾完成

アンケートやワークショップ、サンプルの設置実験など検討を重ね、標識のデザインがとうとう決定しました。プレートの一部は既に制作され、完成しています。

P2



## 蔵座敷・お祭・初市。小田付 重伝建に住むということ part 2

重伝建に住むということはどういうことなのでしょう。昨年に続き、テクノアカデミー会津観光プロデュース学科の学生たちが、現在重伝建にお住まいの方々にお話を伺いました。

P3



## 小田付重伝建映像 「水流の小田付」完成

映像作家飯田将茂さんがとりくんできた映像プロジェクト。地域の誇りとして大切にされてきた「水」をテーマに、小田付の「夏」「秋」が加えられ、四季を巡る映像が完成しました。

P4



## 「小田付プロジェクト」 ウェブサイト公開

小田付プロジェクトのウェブサイトが公開されます。「重伝建」という文言をはずし、より広く小田付の情報を掲載していきます。小田付在住の方のインタビューも随時公開予定です。

P4

## 標識プロジェクト報告展示 & トーク

3年に及んだプロジェクトの集大成として、報告展示とトーク会を開催いたします。ぜひ、ご来場下さい。

2022年7月24日(日)

展示: 絵本の蔵 8:00-13:00

トーク: 絵本の蔵周辺 10:15-10:45

ゲスト: 筑波大学芸術系原忠信研究室 Play Resilience Lab.

協力: おたづき蔵マルシェ

**みんなでつろう 小田付 重伝建 標識プロジェクトとは?** 喜多方市小田付地区は江戸から昭和にかけてきた古いまちなみが印象的な通りで平成30年に文化庁より「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。小田付地区の伝統的建造物(特定物件)であることを示す標識がつくれるにあたり、どんな標識にすると小田付、喜多方の人々が誇りを持ち、見る人が楽しめるかをみんなで考えていくプロジェクトです。喜多方を学び場として長きに渡り訪れている筑波大学原研究室やテクノアカデミー会津と連携をはかりながら、活動を進めてきました。その内容をみなさんにお伝えします。これまでのご協力に感謝いたします。

ワークショップ

みんなでつろう小田付重伝建標識PJ

# 原寸大標識確認WS

筑波大学芸術系原研究室の学生たちが原寸大のデザインサンプルを持ち寄り、重伝建の建築物に配置して視認性、可読性、ディテールなどを確認しました。



ワークショップ

みんなでつろう小田付重伝建標識PJ

# 標識設置確認WS

筑波大学芸術系原研究室の学生たちが標識の設置方法について確認しました。



前回のワークショップの結果を受けて選定されたデザインを筑波大に持ち帰り、文字とシンボルマークのレイアウトの精緻化を行いました。平行して、高齢者生産活動センター陶芸グループのみなさんが陶器のプレート制作を進めました。プレートが完成した頃に、UV印刷を用いて陶器に印字が行われました。

完成した標識プレートは、木・レンガ・土壁などへの設置方法の検討を行い、次のようなルールを決めることが必要との認識が得られました。

- ・材質ごとの下地の処理:ビス、釘などを打てるように下地の処理を行う
- ・プレートを配置する位置:平均的な目線の高さを基準に、上下20度以内の範囲に配置
- ・プレートを設置する建物が通りから見えない場合:下記のどちらかの方法で設置
  - A. 指定された建物に設置する
  - B. 通りから見える位置にある建物のプレートと並べて設置する

ワークショップの後、飯田さんの映像撮影に同行。雨がちの一日でしたが、小田付のその後方、雲の切れ間から飯豊山が姿を現しました。

ワークショップに先立ち、原研究室の学生たちが制作した小田付のシンボルマークを用いた原寸大の試作を用意しました。屋内でまずそのデザインコンセプトについて確認し、使用する素材について意見交換を行いました。その後、それらを重伝建の壁面に貼り、どの案の、どのサイズがふさわしいのか検討しました。

視認性・可読性を確保するためある程度の大きさが必要ではないかと予想していました。ワークショップの結果、あまり大きい標識でなくとも良いのではないかという意見が多く聞かれました。重伝建であることを誇示しなくても良いという、お住まいの方々の奥ゆかしい一面が感じられました。

色彩は、白漆喰や木質の壁面に紛れない色の選定が必要との意見もありました。技術的・予算的な制約などを鑑み最終案の決定が行われました。

a voice from the student  
**より小田付らしい水の捉え方**  
 筑波大学芸術専門学群 4年 田中陽

実際の建物に設置確認した際、絶対にこれで行ける!という強い確信がありました。本来どの状況に置いてもサインの主張を極限まで減らすことを意識したデザインでした。しかし、設置確認の際、予想を反して淡い水色が、どの素材に配置した際もお互いの素材がお互いのあり方をより引き立てる絶妙な相互反応が感じられました。小田付で最も大事な要素である「水」。小田付の水のように主張しすぎずに互いの素材を引き立てる。そんなサインになったと考えています。

a voice from the Student  
**標識を通してできた小田付とのつながり**  
 筑波大学 芸術学学位プログラム 博士前期課程 1年 浜野那緒

実物の標識を確認するのは初めてで胸が高まりました。標識という厳密に統一されているという印象がありましたが、焼き色の出方の違い、アールの違い、手書きによる3本の波の揺れや長さの違い、ひとつひとつ表情が異なることがなんだか愛おしく感じられました。そんな標識は木の壁につけても、漆喰の壁につけても、レンガの壁につけても、ずっとここに居ましたよという顔をして穏やかに建物の一部になりました。私は小田付で生まれたわけでも育ったわけでもありませんが、これから先何十年とずっとそこに居る標識を見つけてはこのプロジェクトを思い出しきつと嬉しくなるのでしょう。

インタビュー：重伝建地区にお住まいの方に伺う小田付のストーリー パート2

# 蔵座敷・お祭・初市。小田付重伝建に住むということ part 2

重伝建に住むということはどういうことなのでしょうか。テクノアカデミー会津の学生たちが重伝建にお住まいの方に伺いました。

**矢部善兵衛(やべ ぜんべえ)さん**  
 元呉服商である喜多方の名家に生まれる。座敷蔵など複数の蔵が国登録有形文化財であり、中でも蔵座敷は、黒漆喰観音開き扉の先は銘木を贅沢に使った座敷だ。おたづき蔵通りの入口に一際目をひく煉瓦造りの洋館は喜多方の景色の一つとして親しまれている。

蔵座敷は、大切なお客さんが来るそこにお通しして、お茶会をする場所でした。

大きな赤いレンガの立派な建物がご自宅と聞いたのですが本当ですか?  
**矢部** 今から18年くらい前、平成に建てられたものです。屋根瓦だけは区別して赤瓦にしています。もともと、なぜ小田付の町はこのような区画かという、昔の地図をご覧になるとわかりますが、北の岩月の方からこの建物の前の菅井屋さんの栗屋さんまでで道路が止まっていた。そこから東に行くと熊倉行き、西に行くと田付川を越えて小荒井に行くという街道で、それが昭和41、2年頃に、南のほうまでずーっと国道ということで道路が通りました。もともとこの建物は、今ある道路の大体中心のあたりまでが敷地だったんですけど、道路が通ったために蔵の母屋がなくなってしまいました。(つづく)

**風間和子(かざま かずこ)さん**  
 県内有数の大地主であった風間家に嫁ぎ、代々受け継がれてきた建物・庭の継承に尽力。家事・育児に追われながらも、体の何倍もある水彩画を描き、随時見学が可能なギャラリーとして、大切に守ってきた蔵に展示。絵の持つ力強さに勇気を貰う。

子供のころはお祭り・初市が一番の楽しみでした。

風間さんは家の仕事の合間に絵を描いているとのことでしたが具体的にはどんな絵を描いているのでしょうか?  
**風間** 水彩画で、ほとんど公募展に出品する為に描き貯めた作品です。サイズが50号から120号までの大きいサイズになります。絵は船を描いていて、中央・県・会津で入選、入賞した作品を自分の蔵に常設して展示していますので是非、今度行かせてください。蔵を改造してギャラリーにしようと思ったのですか?  
**風間** 11年前の震災の時に絵を蔵に収納していたのですが、建物にヒビが入ってしまいました。壁屋さんに色々、瓦や内部の壁を修繕してもらったのです。そこで家族や左官屋さん達が、「こんなにしとくならここで展示したらどうですか?」という意見が出たので急遽ギャラリーに改造したのです。(つづく)

**伊関聡(いせき さとし)さん**  
 会津北方小田付郷町衆会現郷頭としてまちづくりに尽力。かつては小田付のメインストリートであった東町の「あづまさ」の門向かいに、美しく並ぶ板塀が印象的なお屋敷。お庭には今は殆どなくなってしまった水路から水を引く鯉が泳ぐ池がある。

昔から喜多方は、40歳になったら蔵を建てるという習わしがありました。郷頭とはどんな仕事を行っているのでしょうか?  
**伊関** 郷頭は小田付の集まりの会長のことで、小田付の町衆会を立ち上げたときに名前をどうしようかということになりました。会長というよりは、江戸時代のときから使われていた郷頭という役職があるので、「郷頭にしたらどうか」ということで郷頭となりました。

ご自宅は築何年の建物なのですか?  
**伊関** これは棟板という伊関家の2階の天井裏に今も上がっている板で、ここには昭和15年と書かれています。大工さんがこの建物がいつまでも残るようにということで記録に留めて置いたものです。天井裏に潜ったときに写真を撮っていて、今棟札が上がってますよってことで、昭和15年に建ったということがわかります。(つづく)

**東海林伸夫(しょうじ のぶお)さん**  
 おたづき蔵通りの最北に位置する、北町にある老舗の酒蔵「夢心酒造」に生まれる。米は喜多方の契約農家さん、水は飯豊山の伏流水、酵母は県の「うつくしま酵母」、醸すのは、地元の職人という、「福島」にこだわった酒造りをしている。

今から蔵を建てようとしても、もしかしたら建てられないかもしれない。

古い建物のどのようなところが貴重なものだと思いますか?  
**東海林** 小さい頃は目の前に蔵があって、当たり前なものだったけど、大人になって勉強すると、蔵一つ一つが貴重なものだと思います。例えば今、家を建てるとなると、一か月〜二か月で建てられると思いますが、蔵は建てられない気がします。土を盛って乾燥させ、また土を盛って乾燥させ、なおかつ手できれいに窓際の型を取ったりするので、一つの蔵を建てるのに相当日数がかかると思うんですよね。今から蔵を建てようとしても、もう建てられないかもしれない。うちは酒蔵なので貯蔵の蔵がいっぱいあるんですよ。家や倉庫で使っている蔵から、酒造り、酒の貯蔵で使っている蔵まであり、大きくて古いです。明治初期くらいに作ったような蔵がいっぱいある。家で使っている蔵は2棟、全部で5〜6棟くらいあります。(つづく)



インタビュー  
 全てのインタビューの全文はこちらからお読み頂けます

2021年度活動の流れ

みんなでつろう小田付重伝建標識PJ

# クロニクル2021.06-2022.05

2021年度の活動をまとめました。



**2021年6月**  
**報告書「おたづき探検」VOL.2配付@小田付**  
 タブloid判の報告書を小田付地区に全戸配付しました。



**2021年08月10日-11日**  
**映像制作 夏祭り撮影@小田付**  
 お祭りの練習風景を撮影しました。アフターパーティーに出られなかったことが心残りです。その他、お堀の取水口なども取材しました。



**2021年11月13日**  
**映像制作 重伝建生活風景の撮影@小田付**  
 映像作家の飯田さんが秋の景色の撮影に小田付を訪れました。紅葉の小田付はまた違った景色に見えました。



**2021年10月**  
**標識デザイン プロダクション作業@筑波大学原研究室**  
 担当者が各自開発したマークを用いて標識のレイアウトを検討しました。



**2021年11月26日**  
**「喜多方NOW&THEN&FUTURE」@大和川酒造昭和蔵**  
 喜多方ワーケーションとのコラボによるベチャクチャナイトプレゼンテーション。参加者がこれまでの喜多方との関わりと、これから関わりたいことについて語り合いました。



**2021年11月28日**  
**標識検討ワークショップ@小田付**  
 原研究室のメンバーがデザインしたサインを原寸大に出力して、板壁、漆喰、瓦壁、レンガなど様々な素材の上に置き、そのサイズと色を検討しました。



**2021年12月**  
**標識プレート素材検討@高齢者生産活動センター**  
 素焼きの標識プレートの生産が可能かどうか、視察に伺いました。



**2022年1月**  
**標識プレート釉薬・印字方法検討@高齢者生産活動センター**  
 選定した素焼きの素材と複数の釉薬で焼いたサンプルを作成して頂き、どの組み合わせが良いか、検討しました。制作したサンプルにUV印刷の印字を施し、見え方を確認しました。



**2022年2月-5月**  
**標識プレート制作@高齢者生産活動センター**  
 土作り、タタラ整形、粘土のカット、波線入れ、釉薬・焼成の行程を経て、ようやくプレートができあがります。制作を担ってくださった生産活動センターのみなさまに感謝!



**2022年3月7日**  
**蔵座敷VR映像撮影@小田付**  
 テクノアカデミー会津の学生たちが大善 座敷蔵にてVRコンテンツの映像を撮影しました。



**2021年5月21日-22日**  
**標識仮設置&撮影@小田付**  
 標識を仮設置して、動画とスチールの撮影を行いました。小雨の天気でしたが、程よい光量で良い撮影ができました。

## 小田付伝建地区のこれから

「このままでは町が廃れていってしまう!」今から約二十年前、そんな危機感から小田付町衆会が活動を始めました。その後、住民景観協定が結ばれ重伝建地区にも選定されて、町並み整備は着実に進みました。ただ、大震災と原発事故、そして最近のコロナ禍の影響もあり、まちの賑わいは未だに当時の半分も戻っていません。

でも重伝建地区になって春の芽吹きのように、新しい店ができました。金忠のあとには「そば処縁(えにし)」と「明治蔵・助かりマルシェ」、その南隣りには「竹工房たけや」、ちょっと離れて「にくにく工房」。いずれも先輩の「樟山珈琲店」みたいにユニークでオンリーワンの店ばかりです。

私の「未来予想図」では、この通り沿いで若い世代が次々と創業し、工房、アトリエ、ピストロ、カフェ、バラエティーショップなど、魅力的なお店が軒を連ねていきます。北町の「夢心酒造」から「小原酒造」を経て東町の「あづまさ」まで歩く人たちは、みな楽しそうにあちこち寄り道しています…。

このプロジェクトで制作したプレートはそういう時に、個々の建物をより詳しく知るための道しるべとして役に立つはず。そんな日が来るのが待ち遠しくてたまりません。

(小田付町衆会 星宏一)



竹工房たけや



樟山珈琲店/フライパン



明治蔵



星宏一さん

## 映像「水流の小田付」完成

重伝建選定の決め手のひとつになった水路が残っている小田付。四季を通じて小田付の水を追ったドキュメンタリー、ついに完成。



### 飯田 将茂 (いいだ まさしげ)

映像作家。玉川大学芸術学部非常勤講師。主にプラネタリウムを媒体としたドーム映像作品の制作と発表を続ける。舞踏を中心とした踊りの撮影や、舞台の映像演出等も手掛ける。長野県塩尻市で木曾の街や職人を追った《木曾漆器》の撮影をきっかけに、本プロジェクトの映像制作に参加。



水流の小田付  
こちらからご覧いただけます

## ウェブサイト「小田付プロジェクト」

プロジェクトの経過や地区住民への取材内容、実際のプレートデザイン、デザインの意味・理由等を発信する仕掛けとしてホームページを制作しました。アーカイブとしてだけでなく、今後の小田付での活動でも活かされます。



### アラレグミ

アラレグミは、アカデミック領域のためのクリエイティブエージェンシーです。メンバーのほとんどが喜多方を訪れた経験があり、プロジェクトをきっかけに生まれた繋がりで制作を担当。



小田付プロジェクト  
こちらからご覧いただけます

## 編集後記 筑波大学芸術系原研究室 PLAY RESILIENCE Lab.

小田付重伝建標識プロジェクトに関わって3年が過ぎようとしています。ようやく標識をカタチにすることができました。ご協力を頂いたみなさま、心より感謝申し上げます。

クリエイティブのチカラで、喜多方、小田付のためになにかできることはないかと考え、少し離れたつくばから、想いを寄せているのですが、結局は私たちが喜多方からたくさんの学びと恵みを頂いています。いつもありがとうございます!

私は今、北米オレゴン州ポートランドでこの報告書を仕上げています。ポートランドは、常に全米の住みたい町ランキングで上位に入る都市です。市街の中心をウィラメット川が流れ、遠くに万年雪を冠したフード山を望みます。自然を愛し、D.I.Y.精神あふれる市民が暮らす町としても知られ、人口60万人の街にビール醸造所が70以上あり、ファームトゥーテーブルを実践するレストランが多い美食の街でもあります。水が豊かで酒蔵が多い喜多方に似ている!と感じます。

かつてポートランドは、林業で栄え、町中に木の切り株があったため、「スタンプタウン(切り株の町)」と呼ばれました。その後、ウィラメット川とコロンビア川の水運を活かして鉄鋼・造船といった工業化が進み、大気汚染が問題になっていきます。70年代に入ると、環境の良いまちをとりもどそう!と市民が立ち上がり、ダウンタウンの州間高速道路建設への

反対運動が起こります。そんなタイミングで州知事をつとめていたのが、トム・マッコールです。高速道路があった場所から6車線の道路を撤去して、そこを市民の憩いの場、親水公園として再生させます。それが「トム・マッコールウォーターフロントパーク」です。マッコール知事がその決断をしていなかったら、ポートランドは現在のような住みやすく、魅力的な町になっていなかったかもしれません。自動車を優先させるのではなく、人間や自然を優先するまちづくり「We Build Green Cities」。それがポートランドが目指すビジョンです。将来のビジョンを示すことによって、進むべき道(アクション)が明確になり、プレずにものごとを選択することができるようになります。

小田付地区は、水、水路、古い建造物を大切に、人の営みを中心に据えるという選択をしました。現在ではなく、未来を見つめ、行動する。伊関さんのインタビューにもあったように、古い建物を維持するのはたいへんなことです。ですが、一度壊してしまったものは二度と同じカタチでは蘇りません。小田付が星さんの描く「未来予想図」のように、イキイキとした人の営みを感じられる街になることを願っています。(プロジェクトが終わっても遊びにきます!)

最後に、小田付町衆会の伊関聡さま、星宏一さま、最後までこの原稿を待ってくださっているキタ美の五十嵐恵太さま、地域おこし協力隊のみなさま、関係者のみなさま、このような機会を与えてくださったことを心より感謝申し上げます。(原忠信)

# キタ美



発行 キタ美実行委員会 (お問い合わせ:事務局 TEL 0241-23-5188 五十嵐) 協力 喜多方市、テクノアカデミー会津、筑波大学芸術系原研究室 PLAY RESILIENCE Lab., 現地コーディネーター 江畑芳、田村幸絵(地域おこし協力隊)、岩橋美琴(地域おこし協力隊) 標識プレート制作 高齢者生産活動センター 陶芸グループ 映像制作 飯田将茂 ウェブサイト制作 山口大空翔、早川翔人(アラレグミ) インタビュー 高倉有梨紗、矢吹遼佳、生江英知、山田愛花、渡部亜衣梨、澤井野亜(テクノアカデミー会津観光プロデュース学科) デザイン・編集統括 原忠信(筑波大学芸術系) 標識デザイン 石井野絵、浜野那緒(筑波大学大学院芸術学学位プログラム博士前期課程)、大山未聖、小島愛可、田中陽、多辺田風香、熊澤佑悟、嶋村圭太、高桑あかね(筑波大学芸術専門学群) Special Thanks 矢部善兵衛さん、伊関聡さん、風間和子さん、東海林伸夫さん、